

オリンピックのために何ができるのか？
オリンピックは私たちに何をもたらししてくれるのか？
What you can do for the Olympics and
what the Olympics can do for you

講演者 ダスティ・アムロリワラ
Dusty Amroliwala
(イースト・ロンドン大学副学長)

平成28（2016）年12月15日（木）10：40～12：10
東洋大学白山キャンパス 8号館 125記念ホール

報告者 谷 釜 尋 徳¹⁾

本講演会は、東洋大学2020東京オリンピック・パラリンピック連携事業推進委員会の主催で、東洋大学の学生向けに開催されたものである。Dusty 氏の講演は英語で行われ、日本語への同時通訳がなされた。以下の報告は、通訳の内容に基づいてまとめているため、講演者の意図を正確に汲み取れていない箇所があり得ることを断っておきたい。また、文中の章タイトルは、報告者が便宜上付け加えたものである。

1. はじめに

おはようございます。

竹村牧男学長、スタッフの皆様、先生方、ブリ
ティッシュ・カウンシルの皆様、そして東洋大学
の学生の皆様、私は非常に光栄です。誇りにも思
います。

4日間、東洋大学の素晴らしいキャンパス、施
設を見学させていただきました。また、質の高い

スタッフ、学生と交流をすることができました。
そして、今日は皆様の前でお話をする機会もいた
だいています。ありがとうございます。

2020年は、これから皆様が経験する「チャン
ス」です。私も、数年前に2012年のロンドン・オ
リンピックを経験しましたので、疑う余地もなく
次のように言えます。

『これはチャンスです！一生に一度のチャンス
です！』

1) 東洋大学スポーツ健康科学（白山キャンパス）研究室 〒112-8606 東京都文京区白山 5-28-20
Sports and Health Science Laboratory, Toyo University, 5-28-20, Hakusan, Bunkyo-ku, Tokyo, 112-8606, JAPAN

皆様には、このチャンスをぜひつかんでいただきたいと思います。竹村学長も仰っていたように（講演前の「学長挨拶」にて一報告者注）、現実的なチャンスに加えて、オリンピック・ムーブメントの裏側にある「哲学」から得られるものもあります。

2. 自己紹介

さて、少しだけ自己紹介をさせていただきます。

私は人生の大半をイギリス国家の仕事に費やしてきました。最初の30年間はイギリス空軍にいました。2007年に空軍を去り、イギリスの防衛外交ディレクターに就任しました。その後何年かは、さまざまな省庁を渡り歩き、最終的には内閣府に勤務し1～2年の間2012年のロンドン・オリンピックのオペレーション・ディレクターを勤めた後、イースト・ロンドン大学の副学長となりました。

このように、私には非常に幅広い職務経験、背景がありますので、そこにも触れながらお話をしたいと思います。

3. チャンスについて

最初に、チャンスのお話をしたいと思います。オリンピックに際してどのようなチャンスがあるのか、チャンスとは何なのか、どのような課題があるのか、という点についてです。その後、2012年のロンドン・オリンピックから学んだことや、どのようなメリットがあったのか、そして我々がいかにして学生をイギリス全体で起きていた流れに組み込んでいったのかをお話します。

ぜひ認識しておかなくてはならないことがあります。オリンピックは「ロンドン2012」という謳い文句でしたが、オリンピック競技はロンドンだけではなく、イギリス中の東西南北で開催されたということです。日本でも同様に、オリンピック

競技のすべてが東京で開催されるわけではないと思います。したがって、東京以外の地域でも、さまざまなチャンスが出現するはずですよ。

2012年のロンドンでは、「ロンドン・アンバサダー」というものを作りました。東京でも、同じようなものが創造されるのではないかと思います。「東京アンバサダー」といったところでしょうか。これも、皆様がオリンピックに関与していく上で大きなチャンスになります。

さて、今日の講演会は「オリンピックのために何ができるのか?」「オリンピックは私たちに何をもたらしてくれるのか?」というテーマですが、これは非常に考え抜かれた問いです。私がかれからお話することは、皆様が「オリンピックのために何ができるのか?」というテーマが中核にあります。ここ日本で開催される素晴らしいイベントに対して、個人として、そして大学としてどのように貢献ができるのか、についてのお話です。

イギリスには「人生から得られるものは何かと言うと、それは自分が注ぎ込むだけ得られる。」という格言があります。非常に短い言葉ですが、これは私たちが2020年に向けて持つべき心構えを端的にあらわしていると思います。2020年に自分たちはどういう形で貢献ができるのか、ぜひとも考えるべきです。

次に、チャンスについてお話します。チャンスには二つの特性があります。一つ目の特性は、誰もがチャンスを見極める能力を持っているとは限らないということです。チャンスは全員に平等に訪れるものではなく、皆様が自らチャンスを探し求めなくてはなりません。しかも、各自に適したチャンスを確保しなければならないのです。

チャンスの二つ目の特性は、それをチャンスだと認識した段階で、ただちにキャッチしなければならないということです。後になって、あの時チ

チャンスをつかんでいればよかった、などと思う人にはならないでください。

2020年に向かうに連れて、これはぜひ考えるべきテーマです。これから私がお話しする「チャンス」の受け取り方は、人によって違うと思います。皆様それぞれが、違うアイデア、違う目標、違うモチベーション、違う大志をもっているからです。また、すでに東洋大学で勉強している方の中でも、そのチャンスの種類は学年によって異なると思います。

皆様にお尋ねします。東洋大学に今年入学した方（1年生一報告者注）は手を挙げていただけましたか？かなりいらっしゃいますね。では、挙手した皆様に対してお話しします。意識したことはないかもしれませんが、皆様は東京オリンピックが開催される年に卒業する方々です。

皆様の人生にとって、2020年はとても大切な節目になります。東京オリンピックまで、あと4年です。皆様は、日本や東京がオリンピックに向けてやろうとしていることに関われるチャンスをより多く持つ方々です。この中には、来年卒業する方々、2020年にはもう卒業して2～3年目になる方もいると思います。しかし、そのような方々にとっては、また違った形でのチャンスが生まれます。

4. ロンドン・オリンピックで生まれたチャンス

ここで、2012年のロンドンで生み出されたチャンスについて触れたいと思います。最初に皆様と共有しておきたいのが、どのような成功例があったのかということです。

オリンピックによって経済的なメリットがありました。IOC（国際オリンピック委員会一報告者注）は、ロンドン・オリンピックの経済効果が7,680億円を上回ると推定しました。これは、非

常に巨額で大きな投資が必要であるとともに、大きな経済成長のチャンスでもありました。オリンピックを契機にロンドンへの訪問者の数が増え、彼らは非常にたくさんのお金を使ってくれました。通常の夏のシーズンを倍近く上回る金額です。

こうして、2012年に向かってかなりの富が作られました。経済成長のためには仕事が必要不可欠です。専門家は、2012年のオリンピック大会は失業率の大幅ダウンに貢献したと分析しました。新しく作られた仕事の数は、18,000にも上ったと言われています。ロンドンでは長期的な仕事が生み出され、約46,000人がオリンピック関連の仕事に携わりました。オリンピックパークの近隣には大きなショッピングセンターがオープンしました。これによっても仕事が生み出されたわけです。その他、建設業をはじめ、小売業やエンターテインメント業界もオリンピックから多くの恩恵を受けました。

今日、私の話を聞いている学生の皆様の中で、例えば小売業や建設業、あるいはメディアに興味があって仕事をしてみたいと思っている方々は、これらの業界は今後大きく成長すると判断して良いと思います。したがって、皆様が仕事を得るチャンスが長期的に増えてくるはずですよ。皆様も勉強すれば、今後東洋大学で仕事をする機会もあるかもしれませんし、さまざまな業界と一緒に仕事をし、卒業後の就職にもつながってくるのではないのでしょうか。実際、2012年のロンドン・オリンピックが小売業、エンターテインメント業界に与えた経済的影響を見ると、通常の時期の4～5倍という数字を計上していることがわかります。

2020年の東京オリンピックが、皆様の学生生活や勉強にどのような影響があるのか、また日本社会全体にどのような影響を及ぼすのかということを考えてみて下さい。ロンドン・オリンピックを

引き合いに出すと、これだけ大きな成功が生まれているわけです。富が生まれ、仕事で作られる。これはロンドンで実証されたことです。東京でも、必ず同じことが起こります。2016年のリオデジャネイロ・オリンピックでも、同じ結果が見られました。私は、ブラジルの多くの大学生がオリンピック関連の活動に携わるのを見てきました。日本でもきっと、同じようなことが起こるでしょう。

昨日の夕方は、東洋大学の理事の皆様や学長と会議を持ち、今後、東洋大学でどのようにスポーツ分野のカリキュラムを拡大できるのか、また大学としてオリンピックに向けてどのように取り組むべきかをお話ししました。ひとつの組織として、どのようにオリンピックに支援をするのかということです。東洋大学にはこれだけ素晴らしい施設があるわけですから、この白山キャンパスに限らずいろいろなキャンパスでオリンピックに協力できるのではないかというお話をしました。

皆様、学生にとっても、個人にとっても、答えは一つではないと思いますが、さまざまなかたちで協力できるチャンスがあります。そして皆様は、自分の人生を変えるであろうチャンスとは何なのか、今後数年かけて自ら探し出さなくてはなりません。できれば一つのチャンスを見出し、それをつかんでほしいと思います。

5. ロンドン・オリンピックと大学との関わり

2012年においては、イギリス国内の94%の大学がオリンピックに何かしらの形で関わりました。また、継続教育（イギリスにおける義務教育後の教育機関）においても91%の教育機関がオリンピックと関係を持ちました。特にコミュニケーションやメディアを専攻している学生にとっては、関わるチャンスが多かったようです。多くの国のテレビ局がロンドンにやって来たため、この学生た

ちはインターンシップをはじめ、いろいろな仕事の経験を積むことができたからです。

次に学生関与の度合いが高かったのは、実際にスポーツに関わるということでしたが、その次に多くの学生関わったのがボランティアです。学生はボランティア活動や地域のコミュニティ活動にも参加しました。2012年はイギリス社会において一つの転換期になりました。私たちは、ボランティアという考え方を社会全体で受け入れ、実行できるようになったのです。

6. 文化オリンピックアード

ロンドンでは「文化オリンピックアード」も実施しました。東京においても2020年に向けて「文化オリンピックアード」が必ず行われます。オリンピックはただ単にスポーツだけを行う大会ではありません。オリンピックの理想や背景には、さまざまな文化的活動を行いホスト国の文化を紹介することも含まれているのです。日本の社会では、至る所で日本文化を紹介するチャンスが生まれます。いろいろなプログラムが実施されると思いますので、皆様はそれに関与するチャンスが大いにあります。

イギリスにおいても、何百もの文化的なイベントをオリンピックに向けて実施しました。イギリス政府が投資したプログラムもたくさんありました。そのうちの123のプログラムには約1,200の教育機関が参加しました。当時の「文化オリンピックアード」では、参加すること、貢献すること、そしてイギリス文化を最高の形で紹介することが大事なポイントになりました。日本においても、皆様何かしらの形でこれに参加し、貢献することができると思います。

7. ロンドン・アンバサダーについて

ボランティア活動は、ロンドン・オリンピック

を成功に導いた大きな要因です。そのうちのひとつのプロジェクトが「ロンドン・アンバサダー」です。後ほど詳しく説明しますが、この「ロンドン・アンバサダー」こそが大会を作りました。

2012年にロンドンに来た方は分かると思いますが、ロンドンの鉄道の駅、道端、美術館、博物館、そしてスポーツ競技会場に、すぐにそれと分かるような恰好をした「ロンドン・アンバサダー」が配置されていました。皆、ユニフォームを着て、シャツを着て、海外からの観光客をもてなしました。

実際に、オリンピック組織委員会と一緒に仕事をしたアンバサダーもいました。他国の委員と協力したり、メディアと仕事をした人もいました。多くの国の方々がロンドンに来たために、そのようなチャンスが生まれたわけです。学生の中には、「聖火ランナー」という光栄な役割を与えられた人もいました。もし、皆様にそのようなチャンスが来たら、それはおそらく人生の中でこの上ない幸運になるはずです。他には、オリンピックないしパラリンピックの閉会式に参加した学生もいました。ダンス、舞踊、演劇などを学んでいる学生にとっては、参加することによって素晴らしい機会が得られたはずです。

皆様にとっても、オリンピックは一生に一度のチャンスだと思います。

もう少し、「ロンドン・アンバサダー」について説明させて下さい。「ロンドン・アンバサダー」に対する称賛は尽きることはありません。彼らは、ロンドン・オリンピックに多大な貢献をしてくれました。

ロンドンには非常に利用頻度の高い公共交通機関がありますが（日本にも活気のある地下鉄が存在しますが）、そのような鉄道会社も自前の「トラベル・アンバサダー」「トランスポート・アンバサダー」を準備し、観光客がスムーズに旅行が

できるように可能な限りサポートしました。

総勢8,000人におよぶ「ロンドン・アンバサダー」がイギリス中に配置されましたが、彼らは突然現れてサポートをはじめたわけではなく、事前に3日間の研修を受けています。顧客サービスに関する研修のほかに、ロンドンの概況、ロンドンの歴史、オリンピックの歴史についても学びました。これを東京に置き換えれば、皆様のような方々が、東京の歴史や美術館、庭園など、多くの観光客が2020年に訪問しそうな場所に関して勉強し、最善の形で日本の文化、日本の社会を説明できるように準備するということだと思います。

2012年に成功を収めたアンバサダー・プログラムに関して興味深いのは、現在においても、このアンバサダーの方々は交通機関、美術館、空港などで観光客やロンドン市民をサポートしているということです。2012年には誰も想像していませんでしたが、この状況はオリンピックが終わった後も何年にもわたって続いています。「ロンドン・アンバサダー」は若者にたくさんのチャンスを提供し、それに呼応して多くの学生が参加しました。

皆様が大学卒業後の進路を決める時に、履歴書を書くと思います。自分が他の学生と競争する時や、倍率の高い仕事に就こうとする時に、例えばオリンピックのボランティアとして大きく貢献したことを履歴書に記載できると、かなりの差別化を図ることができます。他の方とは違う説明ができることで優位に立てるため、大きなチャンスにつながります。

《ここから数分間、リーダーシップやコミュニケーションをテーマとしたシンプルなゲームを実施》

8. 東洋大生は東京オリンピック・パラリンピックとどのように関わるのか？

2020年に話を戻しますが、こんなに複雑なものには他にありません。自分の国でオリンピックを開催するというほど、複雑なものはないと思います。かなりの作業、仕事が必要になりますが、大規模なチームがそれを実行しなければならないのです。この部屋にいる学生の皆様も、ひとりひとりがそのチームの一員にならなくてはなりません。そして、日本が2020年にそのミッションをしっかりと達成できるように、皆様ひとりひとりが貢献するのです。

2020年は、皆様が活躍するための素晴らしいチャンスを提供してくれます。皆様の想像を超えるようなことに関与できるチャンスです。東洋大学には素晴らしいアスリートの方々があります。しかし、2020年のオリンピックは、アスリートやスポーツ関係者だけのものではありません。2020年の東京オリンピックは、この大学の全員のためにあります。

2020年には、今日お話したようなさまざまなチャンスが広がっていますが、この一生に一度の機会に何をしたいのか、皆様は選択しなくてはなりません。オリンピック関連の仕事に就くのでしょうか？文化オリンピアドに関わるのでしょうか？ボランティアに携わるのでしょうか？

また、研究に関わる場合、修士課程の修了に近づく方々、博士課程に進もうとする方々、博士になられる方々は、皆様の論文で日本社会にどのような影響を及ぼすことができるのでしょうか？その研究内容は、何らかのスポーツ現象をテーマとするのか、レガシーを中心にテーマを設定するのか、あるいはオリンピックが日本社会に及ぼす影響をテーマとするのか、様々な可能性があると思

います。

皆様は、もうすでに、あるコミュニティの一員です。ある国の一員です。ある文化の一員です。私は東洋大学について、ここ数週間いろいろと文献を読んでいます。皆様学生のうちの400名以上が、ボランティアとしてさまざまなプログラムに参加していることが分かりました。震災復興の関係です。

2011年、この大学の多くの学生の方が、時間とエネルギーをかけて被災地に支援を提供したと聞きました。ある意味では、やってもやらなくても良いことだったはずですが、学生の方々からのフィードバックを見ましたが、彼らはその経験から多くのことを学んだようです。私はそれを読んで、非常に素晴らしいと感激しました。

9. おわりに

皆様にとって、2020年は決して悲劇的な時ではありません。むしろ反対です。これは希望の時です。これは充実の時です。そして2020年は、皆様にオリンピックに関与するチャンスを提供します。

話を最初に戻すと、これはすなわち「与える」「注ぐ」ということです。どうすれば自分がオリンピックに貢献できるのかを考えるのです。「私はオリンピックのために何ができるのか？」それを考え抜くことが一番重要なのです。そうすれば、最終的に「オリンピックは私に何をもたらしてくれるのか？」という問いに対する答えが出るはずですが。

どうもありがとうございました。

《講演会終了》